

最優秀賞 題名 勇気を出して

涌谷中学校 三年 柴 隆 晟

この夏休み、母の実家に行きました。母の実家には祖母がいます。僕の祖母は、僕が生まれるよりずっと前に心臓を悪くして脳梗塞を起こしたのだと母から聞いています。祖母は、自分の身の回りのことは全て自分で出来るし、僕の出場するコーチングの大会や吹奏楽コンクールなど一人で地下鉄やバスを使って応援に来てくれていたので、体に不自由なところがあることや年をとってきたことなど、これまでは考えてみることはありませんでした。小さいころを思い出してみても、他の家のおばあちゃんのように抱っこしてくれたりおんぶしてくれたり、公園に連れて行ってくれることはなかったなというくらい思いつくことはありません。今になって思えば、左手にあまり力が入らなかつたり、すぐに息切れしてしまつたりするので、抱っこなどは難しかったのだと思います。その祖母からこんな話を聞かされました。

「おばあちゃんね。この間、自衛隊の音楽隊のコンサートを聴きに行ってきたの。おばあちゃんは音楽が好きなのは知っているでしょう？演奏会に行くのが今の一番の楽しみなの。でも、この年になると、少し歩くと息切れはするし、左手が不自由だから、片手で荷物を持ってバスのつり革につかまるのも大変だし。コンサートの会場にたどり着くのも一苦労なのよ。」

と。続けてこんな話をしていました。地下鉄駅を出てホールまでどちらに向かつて歩いたら良いか分からなくてキョロキョロしていたところ、高校の制服を着た女の子に

「何かお困りですか？」

と声をかけられたそうです。行きたい場所を説明すると、ホールまで5分ほどの道を親切に入口まで案内してくれたそうです。会話をしているうちに分かったことですが、その高校生は、ホールとは全く逆方向の場所に用事があったのに、わざわざ祖母のために逆戻りをして道案内をしてくれたとのこと。祖母が「申しわけないから途中までで良いですよ。」と話す、

「どうせ暇ですから、お気になさらず案内させて下さい。コンサート、楽しんできてくださいね。」

と笑顔で話してくれたそうです。

「今の若い人は、人の気持ち分からない人が多いと言うけれど、優しい心を持った子もいるのね。病気と年のせいでは出来ないことが増えてきたおばあちゃんみたいな人間でも、周りの人に助けられて、人生を楽

しみながら生きていいんだと元気づけられたわ。本当に素敵な高校生だったのよ。隆晟ももうすぐ高校生だから、誰かが困っていたら声をかけてね。」

と。
その話を聞いて僕は思いました。僕は困っているかもしれない見知らぬおばあさんを見かけたときに、自分から声をかけることができるだろうか。もし迷惑がられたらどうしようとか、恥ずかしいし誰かほかの人が助けてくれたら、と後ろ向きに考えて逃げ出してしまうかもしれない。そんなことを考えていたら、その迷いが祖母に伝わったのか、続けて祖母がこんなことを話しました。

祖母も四十代で脳梗塞を起こした直後は、人に助けてもらおうことが恥ずかしくて、手を差し伸べられてもなかなか受け入れられなかった時期があったそうです。もし、声をかけて断ったり怒ったりする人と出会ったら、手助けが必要だということを受け入れる心の準備ができていない人なのかもしれない。優しい気持ちで見えてあげてほしい。迷って声をかけないことで、本当に助けてほしい人が助けられないことのほうが悲しいことだと。

今回、祖母はこういう考えをもっていたのだと初めて知りました。断ったり怒ったりする人にも受け入れられない苦しみがあるのかもしれないなどと、想像してみたこともありませんでした。

もし、困っているかもしれない人、助けが必要かもしれない人に出会ったときは、これからは積極的に声をかけたいです。人見知りな僕にとって、最初は迷ったり勇気が必要だったりするかもしれない。そんな時は、祖母の笑顔を思い浮かべながら、勇気を出したいと思えます。

「何かお困りですか？」と。